

基本情報	許可病床数	大津赤十字病院					滋賀医科大学医学部附属病院					市立大津市民病院							
		病床種別	一般	療養	精神	結核・感染	計	病床種別	一般	療養	精神	結核・感染	計	病床種別	一般	療養	精神	結核・感染	計
			784		12		796		569		43		612		433				8
	稼働病床数	病床種別	一般	療養	精神	結核・感染	計	病床種別	一般	療養	精神	結核・感染	計	病床種別	一般	療養	精神	結核・感染	計
		740				740		569		43		612		395				8	403
		病床機能 (精神・結核・ 感染症除く)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計	病床機能 (精神・結核・ 感染症除く)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計	病床機能 (精神・結核・ 感染症除く)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
			691	49		740		569					569		6	349		40	395
1 ・現状と課題	自施設の現状	<ul style="list-style-type: none"> 高度救命救急センター、総合周産期母子医療センター、基幹災害拠点病院など地域の中核医療機関として高度機能を有する基幹病院 5 疾病・5 事業に積極的に取組 					<ul style="list-style-type: none"> 地域医療を担う中核病院 高度急性期・先進医療を推進する特定機能病院 5 疾病・5 事業・在宅医療への貢献 難病、アレルギー疾患への対応 周産期医療体制における他機関との連携体制強化 人材の育成(国立病院機構東近江総合医療センターや東近江市、地域医療機能推進機構 (J C H O) と連携。総合診療を行う医師を養成。) 					<ul style="list-style-type: none"> 急性期医療の提供が中心 へき地医療を除く 5 疾病・4 事業に対応 							
	自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> 他の急性期病院に比べ平均在院日数が長い傾向にあるため、スムーズな退院のための支援強化や後方医療機関との密な連携が必要 					<ul style="list-style-type: none"> 大津圏域では高度急性期病床の余剰と近隣病院との機能の重複があるため、機能分化の検討が必要 県全域から多くの患者を受け入れているため、高度急性期病床の集中も選択肢の一つ 					<ul style="list-style-type: none"> 地域の医療需要に見合う病床の適正化 人員の適正化 医師や看護師の生産性向上 夜勤のできる看護師の確保 人件費や職員の採用など、経営上の課題 							
2 ・今後の方針	地域において今後担うべき役割	<ul style="list-style-type: none"> 救急医療：「急性期医療の砦」としての役割 三次救急患者の受入れ促進 / 救急隊員等育成の充実 地域医療：大津市医師会との「病診連携システム」推進・開放型病床の運営・検査機器共同利用 地域の医療従事者公開研修会 大津地域小児救急医療支援事業の充実 がん診療：県下全域にわたる地域連携推進 災害医療：基幹災害拠点病院としての役割 原子力災害拠点病院としての役割 各種訓練の実施 関連機関と連携した教育・研修の企画・運営 					<ul style="list-style-type: none"> 大学病院の特性を生かし、県内の医療機関が対応できないところをカバーし、高度循環器疾患、小児、周産期、精神疾患の合併症をもった救急患者を受け入れ、高度な医療を提供 県内唯一の大学病院としての人材育成機能を発揮 総合診療医や地域医療を担う医師の育成において、地域医療教育研究拠点に係る活動拠点を県下の他の圏域に拡充し、医師の偏在に対応 					<ul style="list-style-type: none"> へき地医療を除く 5 疾病・4 事業に対応 地域医療支援病院として急性期医療を中心に提供 かかりつけ医を推進、スムーズな紹介・逆紹介を展開 神経難病病床、緩和ケア病床の運営 							

		大津赤十字病院	滋賀医科大学医学部附属病院	市立大津市民病院																																																						
	今後持つべき病床機能	<ul style="list-style-type: none"> 高度急性期、急性期医療を担う 公的医療機関として政策医療を担う 退院支援や在宅療養支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 大津圏域では高度急性期病床の余剰と近隣病院との機能の重複があるため、機能分化の検討が必要 高度急性期、急性期、回復期、慢性期の各機能が必要な疾患別の解析を行い、これに応じた病床機能分化の検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 病床数の最適化を探りながら急性期病床を維持 神経難病病床、緩和ケア病床の維持 																																																						
	その他見直すべき点	<ul style="list-style-type: none"> 他の急性期病院に比べ平均在院日数がながい傾向にあるため、スムーズな退院のための支援強化や後方医療機関との密な連携を行う 高度急性期・急性期機能の病院間の連携・協議を充実させ、地域から求められる医療機能・病床機能の役割を明確にし、適正な病床機能の検討を行う 手術を必要とする患者をスムーズに受け入れられるよう、診療科ごとの手術枠の見直しを図るほか、麻酔科医の継続確保や全身麻酔件数の増加を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 重症患者の集中によりICU病床等が不足しているため、特定病床等の最適な規模について検討 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の医療需要を反映した病床規模の適正化 病床規模に応じた人員の最適化 付属看護専門学校、介護老人保健施設ケアセンターおおつの在り方 																																																						
3 具体的な計画	4機能ごとの病床のあり	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現在 (平成28年度病床機能報告)</th> <th>将来 (2025年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高度急性期</td> <td>691</td> <td>691</td> </tr> <tr> <td>急性期</td> <td>49</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>回復期</td> <td>41</td> <td></td> </tr> <tr> <td>慢性期</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(合計)</td> <td>781</td> <td>740</td> </tr> </tbody> </table>		現在 (平成28年度病床機能報告)	将来 (2025年度)	高度急性期	691	691	急性期	49	49	回復期	41		慢性期			(合計)	781	740	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現在 (平成28年度病床機能報告)</th> <th>将来 (2025年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高度急性期</td> <td>569</td> <td>569</td> </tr> <tr> <td>急性期</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>回復期</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>慢性期</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(合計)</td> <td>569</td> <td>569</td> </tr> </tbody> </table>		現在 (平成28年度病床機能報告)	将来 (2025年度)	高度急性期	569	569	急性期			回復期			慢性期			(合計)	569	569	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現在 (平成28年度病床機能報告)</th> <th>将来 (2025年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高度急性期</td> <td>6</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>急性期</td> <td>391</td> <td>425</td> </tr> <tr> <td>回復期</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>慢性期</td> <td>40</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(合計)</td> <td>437</td> <td>433</td> </tr> </tbody> </table>		現在 (平成28年度病床機能報告)	将来 (2025年度)	高度急性期	6	8	急性期	391	425	回復期			慢性期	40		(合計)	437	433
		現在 (平成28年度病床機能報告)	将来 (2025年度)																																																							
高度急性期	691	691																																																								
急性期	49	49																																																								
回復期	41																																																									
慢性期																																																										
(合計)	781	740																																																								
	現在 (平成28年度病床機能報告)	将来 (2025年度)																																																								
高度急性期	569	569																																																								
急性期																																																										
回復期																																																										
慢性期																																																										
(合計)	569	569																																																								
	現在 (平成28年度病床機能報告)	将来 (2025年度)																																																								
高度急性期	6	8																																																								
急性期	391	425																																																								
回復期																																																										
慢性期	40																																																									
(合計)	437	433																																																								
	診療科の見直し	将来(2025年度) <ul style="list-style-type: none"> (新設)救急科、緩和ケア科 (変更・統合)神経内科 脳神経内科 歯科・歯科口腔外科 歯科口腔外科 																																																								
	その他の数値目標	(平成29年度目標) <ul style="list-style-type: none"> 病床稼働率 88.0%以上 紹介率 60.0%以上 逆紹介率 90.0%以上 人件費率 50.0%以下 医業収益に占める人材育成費の割合 0.3% 	(平成32年度目標) <ul style="list-style-type: none"> 病床稼働率 一般病床 90% 手術室稼働率 62%以上 紹介率 80%以上 逆紹介率 60%以上 人件費率 40%以下 医業収益に占める人材育成費の割合 0.02% 	(平成32年度目標) <ul style="list-style-type: none"> 病床稼働率 82%以上 紹介率 60%以上 逆紹介率 80%以上 人件費率 55%以下 																																																						

		独立行政法人地域医療機能推進機構 滋賀病院					大津赤十字志賀病院						
基本情報	許可病床数	病床種別	一般	療養	精神	結核・感染	計	病床種別	一般	療養	精神	結核・感染	計
			288			37	325		100	50			
	稼働病床数	病床種別	一般	療養	精神	結核・感染	計	病床種別	一般	療養	精神	結核・感染	計
			247			10	257		100	50			
		病床機能 (精神・結核・感染症除く)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計	病床機能 (精神・結核・感染症除く)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
				197	50		247			50	50	50	150
1 ・現状と課題	自施設の現状	<ul style="list-style-type: none"> 急性期が中心。回復期（地域包括ケア病棟）も担っている がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病に対応。年間 200 名の透視治療 					<ul style="list-style-type: none"> 大津医療圏北部で急性期・回復期・慢性期を担う 地域包括ケア病棟で自院のみならず他医療機関から患者を受け入れ、在宅医療への円滑な流れを作っている 救急・災害医療体制を担う グループ病院（大津赤十字病院）との連携 						
	自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> 人材の確保（そのため総合診療の重要性とその魅力を若手医師に発信） 地域医療の充実 					<ul style="list-style-type: none"> 大津医療圏北部の地域医療を担う病院として総合的機能を求められているが、診療科、外来診療室に限りがあることから近隣の病院、大津赤十字病院との役割分担をより明確にする必要性がある 						
2 ・今後の方針	地域において今後担うべき役割	<ul style="list-style-type: none"> 都市近郊型地域医療を目指す 専門医療から撤退することなく総合医療を導入 					<ul style="list-style-type: none"> 急性期医療機能の維持 地域包括ケア病棟を有効活用 リハビリテーション機能の充実、スムーズな在宅復帰を促す 在宅医療等の提供体制を充実 在宅医療と介護の連携促進 						
	今後持つべき病床機能	<ul style="list-style-type: none"> 急性期医療：機能分化を検討・退院調整機能の強化 回復期医療：地域包括ケア病棟の整備・拡充を検討 予防・診療・介護・在宅の4部門を連動させる 					<ul style="list-style-type: none"> 一般入院基本料を算定していた病棟（50床）を地域包括ケア病棟へ変更し、急性期・回復期・慢性期がバランスよく配置されており、地域医療構想で求められる病棟機能の見直しは実施済み 地域とのよりスムーズな連携をめざし、紹介・逆紹介の仕組みをより強固に 						

		独立行政法人地域医療機能推進機構 滋賀病院				大津赤十字志賀病院			
	その他見直すべき点	<ul style="list-style-type: none"> 病床稼働率が低下傾向であり、今後の医療需要の推移を加味して最適な病床規模について検討する 				<ul style="list-style-type: none"> 医療の質を維持しながら医療と介護の連携を図る 			
3 具体的な計画	4 機能ごとの病床のあり方	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)		現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)	
	高度急性期					高度急性期			
	急性期	238		197		急性期	50		50
	回復期	50		91		回復期	50		50
	慢性期					慢性期	50		50
	(合計)	288		288		(合計)	150		150
		結核病棟 37 床除く							
	診療科の見直し	形成外科を新設				/			
	その他の数値目標	(平成32年度目標) <ul style="list-style-type: none"> 病床稼働率 急性期 80.0% 回復期 90.0% 紹介率 55.0% 逆紹介率 65.0% 人件費率 53.0% 医業収益に占める人材育成にかかる費用(職員研修費等)の割合 0.1% 				(平成32年度目標) <ul style="list-style-type: none"> 病床稼働率 90% 紹介率 20% 逆紹介率 25% 人件費率 60%以下 医業収益に占める人材育成にかかる費用(職員研修費等)の割合 0.15% 			
4 その他		<ul style="list-style-type: none"> 結核医療の縮小 				<ul style="list-style-type: none"> 隣接する湖西圏域との連携も強化する 原子力災害対策に大津赤十字病院と協力して取り組む 			